

## 「国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会」発足

8月3日、KKRホテル東京で「国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会」の世話人会と「研究会Ⅰ：がん領域」が開催された。

この研究会は、日本東洋医学会と日漢協が共同で立ち上げたもので、会長には日本医学会会長の高久史麿先生、代表世話人には国際医療福祉大学副理事長・名誉学長の北島政樹先生が就任された。



【北島政樹先生】

研究会終了後、報道関係者を対象に高久先生から研究会立上げの経緯と、北島先生から本日の研究会Ⅰの概要説明およびディスカッションの総括が示された。

漢方医学の現状認識を深め漢方医学を取り巻く課題解決に向けた議論を進めるため、年内3回の研究会を開催し、来年2月には、各研究会の議論を総括して提言を取りまとめるフォーラムが開催される予定である。

この日の研究会はがん領域をテーマに、国立がん研究センター中央病院長の西田俊朗先生が座長を務め国立がん研究センター研究所がん患者病態生理研究分野長の上園保仁先生と札幌東徳洲会病院先端外科センター長の河野透先生の講演、さらに東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻臨床疫学・経済学教授の康永秀生先生の特別講演が行われた。出席された先生方による活発な議論と意見交換が行われ、総合司会の北島先生が総括し、全出席者の賛同を得た。



【高久史麿先生】



【報道関係者説明会】

## 研究会Ⅰ：がん領域

【総合司会】 北島 政樹 先生(国際医療福祉大学 副理事長・名誉学長)

【座 長】 西田 俊朗 先生(国立がん研究センター中央病院 病院長)

【一般講演】「がん患者のQOL向上に貢献する漢方薬」

上園 保仁 先生

(国立がん研究センター 研究所がん患者病態生理研究分野 分野長)

「消化器外科における漢方の応用」

河野 透 先生

(札幌東徳洲会病院 先端外科センター センター長)

【特別講演】「医療ビッグデータを用いた漢方研究」 ～がん領域を中心に～

康永 秀生 先生

(東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻臨床疫学・経済学 教授)

【ディスカッション(委員からの意見等)】

【総 括】 北島 政樹 先生(国際医療福祉大学 副理事長・名誉学長)

## 研究会 I : がん領域 【提言】

1. がん領域、特にがん支持療法においては、漢方製剤のエビデンスの構築を加速すべきである。
  - ・抗がん剤(特に分子標的薬)による副作用対策と安全性データ(相互作用)の蓄積
  - ・バイオマーカー(レスポンドーマーカー)の開発
  - ・がん患者に服用し易い剤形の開発
  - ・医学経済学的研究の推進
  - ・海外とのコラボレーション研究の推進
2. がん患者ならびにその家族、国民に対して漢方薬の科学的エビデンスを伝える仕組みを構築すべきである。
3. 漢方薬は他国には無い「日本オリジナルの薬剤」(Made in JAPAN)である。産官学の漢方薬研究体制を構築することにより、漢方薬のエビデンスを更に充実させ、海外展開を視野に入れた活動をすべきである。企業努力は当然として、国としてより積極的な支援が望まれる。

## 研究会 I : がん領域 【出席者一覧】

会長	高久 史麿	(日本医学会 会長)
代表世話人 総合司会	北島 政樹	(国際医療福祉大学 副理事長・名誉学長)
世話人	合田 幸広	(国立医薬品食品衛生研究所 薬品部長)
委員	山本 信夫	(日本薬剤師会 会長)
	白川 修二	(健康保険組合連合会 副会長)
	佐藤 弘	(日本東洋医学会 会長)
	小松 かつ子	(富山大学和漢医薬学総合研究所 教授/和漢医薬学会 理事長)
	袴塚 高志	(国立医薬品食品衛生研究所 生薬部長/日本生薬学会 理事)
オブザーバー	厚生労働省、農林水産省、文部科学省、内閣官房	
	医薬品医療機器総合機構 (PMDA)	
	日本医療研究開発機構 (AMED)	